



# 演劇ネットワークぱちぱち 2025年度振り返りレポート

2025.4.1~2026.3.31

主催：公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団

運営：一般社団法人AsoVo

# 演劇ネットワークぱちぱちとは？

演劇ネットワークぱちぱちのミッションは、<八王子から発信する、あなたが演劇とのより良い付き合い方を見つけるための環境作り>です。そのため、18歳～25歳という社会に飛び出したばかりの世代が、「自分らしい演劇の続け方」を考えたり試したりするための「仲間」「知識」「場所」と出会えるプラットフォームを作りました。劇団とも学校とも違う、演劇を通したゆるやかな繋がりの中です。たくさんの取り組みを行い、それがどうなったのかを発信していきます。

## メンバーになれるのは？

**18歳(高校生不可)～25歳の方**

※26歳以上のメンバー出身者は「ぱちぱちフェロー」としてメンバーをサポートしながらともに活動ができます。演劇経験不問。学生・社会人不問。八王子や近隣の地域だけでなく、全国から参加可能。

## はじめに ～ぱちぱちの2025年度～

2025年度の大きなトピックといえば、春、演劇ネットワークぱちぱちの更なる拡大を目指して、企画制作部が発足したことです。ぱちぱちメンバーを増やすべく「ぱちぱちの演劇ワークショップ祭り」を企画立案・開催しました。その結果、新たに15名がぱちぱちメンバーになりました。これでメンバーは123名！ついに100名を突破しました。また、秋には「多摩ニュータウンヒーロー部」が「ぱちぱちヒーロー部」として生まれ変わり、更なる発展・拡大を目指して活動を始めました。

このレポートは、そんなぱちぱちの2025年度がどんなものだったのか、振り返るためのものです。

## メンバー数の推移

2021年

10人(立ち上げ時)

2022年

33人(+23)

2023年

64人(+31)

2024年

80人(+16)

2025年

94人(+14)

2026年

123人(+29)

※2026年3月時点

# 2025年度に開催した主な企画・イベント

2025. 5月	いろいろな自分に出会おう。若者のための短期演技ワークショップ
5月～	企画制作部
6月	小学校アウトリーチ
7月	むかしむかし、あるお家に～たまたまここで大冒険～
8月	令和7年度 日野市中央公民館平和事業「市民による平和への祈り」
9月	交通安全演劇『水戸黄門～中野漫遊記～』
10～12月	いろいろな自分に出会おう。WS第2弾 ぱちぱちの演劇ワークショップ祭り
10～2月	ぱちぱちヒーロー部(旧・多摩ニュータウンヒーロー部)
11月	ミズキとひさによる演劇創作方法について
2026. 2月	マジゲキPJ プロデュース『十二支の始まり』
2月	ぱちぱちのえんげきひろば
3月	ぱちぱち A-GO-GO!

# 各企画ごとの振り返り

## ぱちぱちメンバーのコメントテーマ

Q.

あなたはご自身の参加した企画を通して、  
どのような変化がありましたか？  
また、どのような気づきがありましたか？

### いろいろな自分に出会おう。若者のための短期演技ワークショップ

新年度、ぱちぱちのメンバーを増やすための企画として、テーマ別に平川和宏さん(テーマ:声)、福原冠さん(テーマ:身体)、一宮周平さん(テーマ:コミュニケーション)、3人の講師を招き、演技のワークショップを企画・開催しました。この企画により、11人のメンバーが新たにぱちぱちに参加しました！



### 企画制作部

ぱちぱちの企画や運営に関わる人材を募集し、発足した企画制作部。「演劇を社会と接続させる力」を実践的に身につけることを目標に、ぱちぱちで実際に行う企画の種を持ち寄って、話し合いました。5月に通い合宿を行い、それ以降は月に一度のMTGを行う中で、『いろいろな自分に出会おう。WS第2弾 ぱちぱちの演劇ワークショップ祭り』と『ぱちぱちのえんげきひろば』、2つの企画が生まれました。

参加した  
ぱちぱちメンバーの声

企画制作のプロセスを実際に学ぶことができて良かったです。考えることの多さには驚き、あまり役に立てなかったのではと思いますが、制作の仕事をする姿がとても参考になりました。ぱちぱちで色々な人がもっとたくさんの交流を持てるようになるにはどうすればいいのか、色々頭を悩ませましたが楽しかったです。

(野口沙希)



### 小学校アウトリーチ

八王子市内にある小学校2校に対して、ぱちぱちメンバー4名がアシスタントとなり、45分×2回の演劇ワークショップを行いました。「演劇遊び」を通して学芸会で生き生きとした表現ができる・そのきっかけとなるようなワーク」をそれぞれ高学年向けと低学年向けに全員で考えました。

参加した  
ぱちぱちメンバーの声

小学校アウトリーチという企画に参加し、子どもたちとの関わり方の難しさを感じながら、それでも関わりたいと思う気持ちが自分の中にあることに気づきました。WSファシリテーターという、場を守り子どもたちを誘導する立場として、ただ一緒に楽しむのではなく、一人ひとりの様子を見ながら安心して表現できる場をつくることの大切さを実感しました。実際には、どこまで声をかけるべきか迷う場面も多く、自分の未熟さも感じましたが、その迷いも含めて子どもたちと関わることの面白さを知る機会になりました。

(若葉美奈)

# 各企画ごとの振り返り

## むかしむかし、あるお家に～たまてばこで大冒険～

2021年から続く「むかしむかし」シリーズ第5弾。7月に開催された「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～」の参加演目の1つとして制作されました。お客様が歩きながら物語を体験する「ツアー型演劇」として、新しくリニューアルした八王子のいちようホールを出演者が駆け巡り、ラストに巨大な蛇が登場するなど、むかしむかしシリーズ史上最大規模の作品となりました。

### 参加した ばちばちメンバーの声

企画の中で子供たちとコミュニケーションをとり気づいたことは、子供は私が想定しているよりも考えを持って自主的に動いてくれるということです。練習での想像上の子どもは、事細かく指示を出さないと動いてくれませんでした。しかし、実際本物の子供たちと物語を進めていくと、子供が先回りして私がやって欲しいことを提案してくれたり、大雑把な指示でも積極的に行動に移してくれたりしました。この経験から企画参加の前後で明らかに子供に対する接し方が変化したと思います。企画前は子供に対して、自分より経験の少ない保護対象として懇切丁寧に接していましたが、企画後は保護対象ではあるものの1人の自立した人間として接するようになりました。

(工藤千鶴)

『むかしむかし、あるお家に』はイメージ型で、お客さんと会話をしたり参加してもらったりしながら、物語を進めていく作品でした。最初は、初対面のお客さんと役としてアドリブで話すことに緊張していましたが、気づけば一緒に空間を作る瞬間がとても楽しくなっていました。出演者と観客の間に隔たりがなく、空間や感情を直に共有する経験は新鮮で、演劇のペースには人と人の相互の反応があって、演劇は一種のコミュニケーションになり得るんだと、この公演で深く実感しました。人生で初めて学校外で参加した作品でもあり、これから演劇を続けていく上で大切な気づきを得た、思い出の深い作品です。

(山地真央)



Photo: 斎藤弥里

# 各企画ごとの振り返り

## 令和7年度 日野市中央公民館平和事業「市民による平和への祈り」

「平和への祈り」をテーマに様々な団体が集い、合唱や朗読、戦争体験についての講話などを発表しながら平和について考えました。ぱちぱちは今年で3年連続の参加となりました。当日は、ぱちぱちフェローの堀慎太郎さんが国策落語『献金長屋』を独り芝居で演じました。

### 参加した ぱちぱちメンバーの声

基本部分をより強くする必要があると思いました。あるボディービルダーの言葉に「100kgのダンベルを持ち上げるには60kgのダンベルを数多く上げたほうが良い」というものがあります。では私にとって60kgのダンベルとは何なのか？と考えると、他者とのコミュニケーションだと考えました。この基礎部分を考えると「どうして私はこの台詞を言うのか？」「どうして私は此処にいるのか？」「私は他者とどんな関係性を築けるのか？」等の思考に至りました。この振り返りを経て、今後はその場限りの芝居では無く、より自分の深みを探って行きたいと考えました。

(堀慎太郎)



## 交通安全演劇『水戸黄門～中野漫遊記～』

中野区交通安全のつどいでの上演。交通安全をテーマにしたコメディ演劇。本番では、温かいお客様に恵まれ、会場では何度も笑いが起こっていました。なんと、劇中では本物の現役警察官の方にも出演していただきました！

### 参加した ぱちぱちメンバーの声

「ニーズに応える」。この企画で意識していたことです。自分たちのために表現をやるのではなく誰かの為に表現をすること。やはり大切だと強く思います。今回の企画は、演劇の新しい可能性を見つけるきっかけになったと思います。コミュニケーションの方法や、伝え方の工夫を演劇を活用することが出来れば、もっと演劇の需要は高くなると思います。会社や企業、学校や行政など幅広い分野に演劇を用いることで、繋がる事が出来るかもしれない。そう感じました。そうすれば演劇の続け方も広がり、演劇を続けたい人の手助けになる小さなきっかけになってほしいなと思いました。

(若尾颯太)

# 各企画ごとの振り返り

## いろいろな自分に出会おう。WS第2弾 ぱちぱちの演劇ワークショップ祭り

より多くの、演劇以外の分野の人にも「演劇ネットワークぱちぱち」を知ってもらい、交流するための企画として、企画制作部が企画立案をしました。「演技(講師:福原冠さん)」だけでなく、「応用演劇(講師:菅原直樹さん)」と「ダンス(講師:木皮成さん)」をテーマとすることで、ぱちぱちの幅の広さを感じてもらおうというねらいもありました。この企画により4人のメンバーが新たにぱちぱちに参加しました!

### 参加した ぱちぱちメンバーの声

ワークショップ参加者の方と交流する中で、今回のような初心者、若者向けのワークショップの需要がしっかりあるのだなという気づきがありました。演劇に興味のある若者にはお手本となるものや教えてくれる場所、交流の場所が少ないのだなと感じました。実技的な話だけでなく、演劇の楽しさや面白さ、奥深さをあらためて実感できるワークショップだったなと思い、演劇の純粋な面白さを再発見できてとても嬉しかったです。とても良い場になったので、ワークショップでの縁がもっと持続的に広がっていったらいいなと思いました。

(野口沙希)



## ミズキとひさによる演劇創作方法について

10代の終わりに八王子で出会い「二人芝居をしよう」と約束した竹内ミズキと箕浦妃紗による講演会形式の演劇。5年の時を経て、2人が出会った八王子で、上演の約束が果たされました。

### 参加した ぱちぱちメンバーの声

この企画を通して、演劇との関わり方について熟考した。5年間という長期間の企画なので、その間に变化した自分の心境を、過去と未来とをなるべく平坦に視つめることになった。応じて私と演劇との関係は自己批判を先取りすることとなり、停滞を許さず、未知の方へと移動していった。

2021年から始まった5年という単位は私にとって、尺にして実感を持てる具体的な目安になった。以降の活動計画は5年を念頭に立てることが増えた。次の5年は2030年。自分を変えるには十分な時間で、何かを変えるには短い。人生100年。焦らず、着実に力をつけていこう。この企画を通して私は私の“可能”と“可能性”に気づいた。

(竹内ミズキ)

# 各企画ごとの振り返り

## ぱちぱちヒーロー部(旧・多摩ニュータウンヒーロー部)



これまで「多摩ニュータウンマン」とその仲間たちを中心に活動してきた多摩ニュータウンヒーロー部ですが、更なる発展と拡大を目指して「ぱちぱちヒーロー部」として生まれ変わりました。併せて公式サイトもオープン!今年度は「ぱちぱちヒーロー部」の認知拡大を目標に、現所属ヒーロー「多摩ニュータウンマン」の手軽に披露できるミニコンテンツの作成が行われたほか、八王子のハロウィンイベントや、フリーマーケットへの参加など、多摩ニュータウンマンは更に活躍の場を広げました。新しいヒーロー「はちおう獅子カジッテ」も生まれるなど、ヒーロー部にとって盛りだくさんな1年となりました。

### 参加した ぱちぱちメンバーの声

今年度の活動では、音楽、ダンス、紙芝居、サイト制作…いろんな人がいろんな多摩ニュータウンマンの楽しみ方を提示してくれました。それによって、多摩ニュータウンマンのアイデンティティが形成され、中身はさらに厚くなっていきました。そのために必要なのは、クリエイションにおける魅力的な軸です。その軸は、ある程度具体的なビジョンでなくてはいけません。「観客にどんな表情で帰ってほしいか」「どんな世界になることにつながってほしいか」「どんな存在だと思われたいか」…企画者が具体的に提示することで、クリエイションメンバーはアイデアの指針をつかみ、堂々と魅力的な提案をしやすくなる。しかし、軸を見失ったり、不安な時もあります。そんなときは、クリエイションメンバーに嘘をつかず、具体的な悩みや不安を提示することも非常に重要だと思います。

(奥山樹生)



## マジゲキPJ プロデュース『十二支の始まり』

2023年から続く「マジゲキ」シリーズ第3弾。十二支の座を争い、動物たちが全力で走り、ぶつかり合い、関係を立ち上げる舞台『十二支の始まり』を多摩地域の高校生たちが熱演。ぱちぱちメンバーも出演やスタッフで高校生をサポートしました!

### 参加した ぱちぱちメンバーの声

この企画を通して、自分が課された演出としての役割をより自覚できました。短い稽古期間の中では、とにかく準備を重ね、それを稽古場に持ち込むことが重要であると学びました。また、高校生にどのようなメッセージを届けたいのか、自分のやりたいことを明確にして伝えることの大切さにも気づきました。さらに、稽古場で誤解を生まないための丁寧な対話の重要性も強く感じました。短い期間では、誤解に後から気づくと大きな負担になるため、早い段階で共有し合う必要があります。こうした経験を通して、下準備を重ねること自体が自分にとって大きな力になると実感しました。(濱穂友乃)

# 各企画ごとの振り返り

## ぱちぱちのえんげきひろば

毎年2月末に開催される八王子の子ども向けイベント「ふれあいこどもまつり2026」の演目の1つとして、企画制作部が企画立案・制作を行いました。「様々な演劇の形に触れることで、子どもたちに演劇の楽しさを感じてもらおうこと」「八王子における演劇ネットワークぱちぱちの認知向上」を目的として、7つの異なる企画を同時に制作し、いちようホールのロビーに小さな広場を出現させました！

### 参加した ぱちぱちメンバーの声

今回、『みんなでかんしゃ！ありがた摩ニュータウン』を読みました。ワクワク楽しい気持ちが湧き上がり、お話に出てくる魔法の言葉を口にするとちよっぴり勇気ももらえる。そんな作品にしたかったので、子供のパワーに負けない強い意志と莫大なエネルギーで挑みました。ページを捲るスピードやお客さんへの語りかけといった、紙芝居という形式だからこそできる表現をお客さんと共に楽しみました。紙芝居は言葉と絵がもともとある為、それだけでも十分に楽しむことができますが、読み手と聞き手が相互にコミュニケーションを取ることで生まれるつながりがあると思います。

(森口夏希)



## ぱちぱち A-GO-GO!

演劇ネットワークぱちぱちの1年をみんなで振り返るイベント。2025年にぱちぱちがどんなことをしてきたのか、どんな仲間がいるのかを、実演も交えてぱちぱち内外のみなさんに紹介するイベントです。

### レポート一覧

それぞれの企画について、  
より詳しく知りたい方はこちらの  
QRコードからどうぞ！



## おわりに

演劇ネットワークぱちぱちは、18歳から25歳までを参加の条件にしているため、流動的なネットワークです。常に関わるメンバーが入れ替わります。また、運営側が主催する長期の企画やシリーズ企画はありますが、基本的に企画は単発のものが多く、何かの企画に対して一度きりの参加の方も多く、その記録は意識して残さないとすぐに消えてしまいます。さらに、一つの企画を終えてそれで終了ではなく、振り返ることで次の活動に繋がる学びが生まれると思います、今回は今年度行った代表的な企画の概要に加えて、その企画に参加したぱちぱちメンバーにコメントを書きいただきました。また、このレポートに書かれている企画以外にも、今年度は「ぱちぱち説明会2025! (5月)」やメンバー限定企画の「戯曲研究会 オンライン本読み会・相談会(6~7月)」なども開催しました。

ぱちぱちは「場」を提供するネットワークであるため、外部の方にその本質を伝えようとしても、中々上手く伝えられないことがあるのですが、この振り返りレポートを通して、何か少しでもぱちぱちのことが伝えられたらと思います、今回のレポート作成に至りました。ご協力くださったぱちぱちメンバーの皆さま、ならびに関係者の皆さま、本当にありがとうございました。2026年度も宜しくお願いいたします。



### 「演劇ネットワークぱちぱち 2025年度振り返りレポート」

2026年3月31日(火)発行

編集:伊藤優花(一般社団法人AsoVo)

齊藤舞夕(一般社団法人AsoVo)

監修:辻 寛子

制作:柴崎加奈子

協力:奥山樹生、工藤千鶴、竹内ミズキ、野口沙希、濱穂友乃、堀慎太郎、森口夏希、  
山地真央、若尾颯太、若葉美奈(50音順)

お問合せ:network.pachipachi@gmail.com